



区議会第3回定例会

日本共産党
北区議員団

代表質問

野口まさと議員

次期基本構想は **貧困と格差の是正**

区民が必要な施設の確保

学校給食無償化・教員不足解消

ジェンダー平等も **実現できる構想へ**

人口の見通しと区民施設の拡充について

これまで、20万人台後半に減少するとの人口推計に従い、学校の統廃合や区民事務所分室の全廃、さらに北区公共施設再配置方針による施設面積15%削減など、区民施設の削減を進めてきたが、人口増で、教室や学童クラブなどが足りなくなっている。今後20年人口維持なら、施設削減から充実への方針転換を基本構想にも明記すべき。

【答弁】人口見通しは、2036年をピークに減少するが、2040年時点は、現在と同程度。一方、「区有施設保全計画」等で、目標使用年数を80年としている公共施設の建替や管理の計画はより長期的な取り組みが必要。

公共施設の建替や運営費が、財政圧迫とならないように、基本構想へ施設拡充について記載することは考えていない。

貧困と格差の是正に向けた取り組みを

もともと生活が厳しかった①コロナ関連給付金を受給した事業者、②給付金・協力金を受給した公営住宅入居者、③緊急小口資金・総合支援資金を受給した住民税課税者などに、税金や社会保険料の負担が増えたり、返済開始で困窮したりする事態が発生している。こうした困窮世帯には、アメリカのバイデン大統領が学生向けローンの返済を免除したような負担軽減を、北区として国に求めている。

【答弁】東京都と同様に、給付金や支援金を、受給した方の収入とみなし、東京都にも除外を求めず税金・社会保険料を賦課する。また、緊急小口資金・総合支援資金の償還は、これまで同様に据置期間の延長などの国判断を注視し、情報提供につとめる。

コロナ第7波への対応について

PCR検査、医療体制、保健所体制の強化を行って、検査・医療・支援が行き届くように

【答弁】都の事業の無料検査所を区内に4カ所確保・提供。高齢者入所施設等の従事者の、一斉・定期的PCR検査も実施。区内2病院の協力で抗原定性検査キットも配布。発生届を受けての協力医師によるオンライン診療や、薬剤師会協力による配薬による医療支援は調整中。医療支援が行き届くよう、医師会等と連携し確保に努める。

学校給食無償化、教員未配置校解消など

①部活指導員②教員事務補助員③困難な保護者対応可能なスクールロイヤー④学力パワーアップ教員⑤スクールコーディネーターなどの配置、増員を

【答弁】学校給食は他区に先駆け、2020年10月から第二子半額、第三子以降無償。さらに、一部公費負担しているが、同程度の質の確保困難が予想され、検討中。現状は所管委員会で報告。

今年度当初は未配置校なし。9月1日時点で、退職や病休、産休・育休等での教員未配置が小学校9校。加配教員の協力など指導体制工夫。部活動指導員や教員事務補助員等で、教員負担軽減につながると聞いていたので、精査したうえ、今後の必要な対応について検討



●ご相談はお気軽に
090-9240-8066

裏面は **本田正則** 区議の個人質問

日本共産党 北区議
会議員 **本田正則** 区政レポート

NO. 307号2022.09.14

日本共産党北区議員団
〒114-8508 北区王子本町 1-15-22



本田正則
個人質問
2022/9/12

一 軍都から平和都市へ、 住民の被害と加害を継承・発信する平和祈念事業へ

(1) 区民の戦争体験、被爆体験の掘り起こしと継承、平和祈念事業の充実を

- ① 新たな戦争体験資料を生かし、80年記念誌発行の準備を。
- ② 広島・長崎の平和祈念式典へ、区民・子ども代表派遣を。
- ③ 平和祈念週間を中央図書館や飛鳥山博物館と連携して規模拡大、戦争体験を聞く会を。

【答弁】 新資料活用は、今後、「戦後80年記念誌発行の準備を行う中で、検討」
* 収集状況: 図書館の地域資料専門員と博物館の学芸員により東京第一陸軍造兵^{ぞうへいしやう}廠滝野川工場^{たきのがわ}で学徒動員で働いていた方への聞き取りの記録や、飛鳥山博物館研究紀要「北区における戦中・戦後の暮らしの変遷」など

(2) 軍都北区から非核平和都市北区への歴史の継承発展のために

(3) 中之条など友好都市との平和事業交流を

(4) 観光・文化事業と連携して発信する平和事業へ

- (2) 軍事施設を開放して平和都市づくりを進めた歴史を中心に。軍事施設平和施設変遷マップを
- (3) 中之条で、戦時中の滝野川国民学校の運動会や疎開先の児童の16mm映像を上映した。中之条、甘楽町、酒田市などの友好都市と連携しては？
- (4) 中央図書館などの文化教育施設との連携で平和事業を進め、観光を通して区内外へ発信を。

【答弁】 展示物動画をユーチューブ配信した。
また、観光の視点を採り入れ、戦争を語り継いでいく取組も大切なので、観光ボランティアガイドによる観光コースに石神井川沿いの軍事遺跡探訪を設け、北区ウォーキングアプリ「あるきた」では、平和を願う軍用地巡りを加えた。
来る11月には、板橋区との合同で、石神井川沿いの遺構を巡るツアー開催予定。
平和祈念事業の具体的な取組み、刊行物は、教育委員会や関係機関とも連携を図り、企画会議などで様々な視点から検討。
広島・長崎での平和祈念式典への区民の派遣や、友好都市との連携につきましては、他自治体の取組みも参考に研究してまいります。

(* 本田注: 現行6区が派遣しているのは確認)

二 補聴器助成制度の実現を

(1) 補聴器助成制度をなんとしても実現を

【答弁】 特別区では、補聴器助成制度が今年度16区で実施。
東京都の補助金を利用するには、耳鼻咽喉科医の意見書に基づく補聴器の必要性確認や、認定を受けて調整ができる販売店の選定が必要。今後、北区医師会と調整に入る状況。対象者の要件や給付方法、補助金額などは各区様々。他区の制度を参考に、医師会などのご協力もいただき導入に向けた検討を進める。

(2) 日常生活用具・福祉用具の給付・貸与事業も最高レベルで実施を

【答弁】 東京都の「高齢者福祉施策一覧」に、介護保険の認定非該当の方へ、日常生活用具等を給付・貸与する事業の各区の状況が示されている。
区では、介護保険制度開始時(2000年)に見直し、現在は、北区社会福祉協議会による車椅子貸与を実施。多くの種類の用具の給付・貸与をしている区もある。
介護保険制度開始から20年経過し、環境変化も踏まえ、他区における対象者や利用状況などを調査・検証し、必要なものについては実施を検討する。

三 滝野川地域の高低差にともなう諸課題の解決を

(2) お風呂屋さんにも、利用者にも支援の拡充を

【答弁】 ① お風呂屋さん支援——今年度から、浴場内抗菌コート等への補助新設、補正予算案で燃料費補助増額を計上した。今後も支援策を検討。
② 高齢者ヘルシー入浴補助券——
i 委託料の引上げは、慎重な対応が必要と考えています。
iii 入浴補助券の相互利用の他自治体への働きかけは、先月開催の公衆浴場関係区市担当者連絡会で、都から、検討についてのお願いがあったことから、各区の浴場組合との協議、利用者や浴場の負担割合や事業の運用方法の調整など、課題が多く、実現には時間を要すると考えています。

★ 本田議員の再質問で、入浴券事業で浴場負担があるのは北区だけと判明。

(1) 買い物難民をなくすための、地元資本による共同店舗の確保を

(3) 上中里・西ヶ原地域に高齢者あんしんセンター増設を

(4) 思いやりのあるコミュニティエリアづくりを 等は次号以降に